

令和8年第1回議会定例会（施政方針・当初予算）

令和8年度の予算案及び諸議案のご審議をお願いするにあたり、新年度の市政運営に臨む所信の一端を述べさせていただきます。

今年は午年です。午は、昔から躍動・成功・勝負運を象徴する干支とされています。まっすぐ前へ進む力強さから、事業が発展する年、努力が実を結ぶ年とも言われます。

全国的に人口減少や少子高齢化が進行する中、白井市においても平成30年4月末の63,793人をピークに、以降年々減少し、令和8年1月末時点では61,640人となっています。この要因は、子どもの出生数の減少など自然減によるものです。

また、急速に高齢化が進行しているため、若者世代が減り年齢構成バランスが崩れてきていることや農業・商業・工業分野などの担い手不足が問題となっています。加えて、ニュータウン開発当時に整備した小中学校や公民館、コミュニティー施設のほか、文化センター、運動施設、道路など社会インフラの老朽化も進んでいます。

今、白井市は大きな転換期を迎えていると考えています。

このようにさまざまな課題を抱えている中、持続可能で豊かなまちづくりを実現していくため、中長期的な視点に立ったまちづくりを進めていく必要があります。

さて、本年は「第6次総合計画」がスタートする重要な年です。第6次総合計画では、白井市に関わる全ての人々が豊かさと幸せを実感することを理想とし、10年後の目指すべき方向性を示す将来像を「世代を超えた 笑顔と豊かさを 未来へつなぐまち」とし、将来を見据え豊かなまちづくりを進めてまいります。

その初年度として、子育て環境の充実や、災害に強いまちづくりに力を入れていきたいと考えております。具体的には、令和8年度中に市内の全小中学校の体育館及び柔剣道場にエアコンを 一斉整備する準備を進めています。教育現場における熱中症対策はもとより、大規模災害の発生時には地域の避難所にもなる体育館等にエアコンを整備することで、教育環境等の向上及び市民の安全・安心の確保、防災に備えた環境づくりを進めてまいります。このほかにも、「子どもの居場所づくり支援」の拡充、「インクルーシブ保育」や「教育DXの推進」など子育て環境の向上なども進めてまいります。

また、新たにスタートする第6次総合計画基本構想及び前期基本計画を着実に推進するとともに、社会経済情勢の変化への適切な対応や多様化する行政課題に迅速かつ効果的に対応していくため、実行力のある行政組織体制を整備します。今議会にも提案させていただきましたが、市長直轄部署であった「未来創造戦略室」と「総務部」、「企画財政部」を再編し、第6次総合計画の政策を横断的に強力に推進していく「政策推進部」を設置します。

また、企業誘致の更なる推進などに向けて、未来創造戦略室の体制強化、行政経営改革、DXの更なる推進のため、行政経営推進課の設置などを行い、引き続き限られた職員数で、多様化する行政課題に適切に対応してまいります。

白井市は、都心から近い利便性、災害に強い地盤、日本有数の梨の産地、人に恵まれ地域コミュニティ活動が盛んなことなど、他のまちにはない好条件が整っていますので、この利点を生かし、新たなステージに向かって果敢に挑戦し、誰もが安心して暮らし続けられるまちづくりを「オール白井」で全力で取り組んでまいります。

(当初予算)

次に令和8年度当初予算について申し上げます。

今年度の予算案のキャッチコピーは、「駆(か)ける！次代に踏み出す挑戦予算」です。

令和8年度は、市における10年間のまちづくりの指針である「第6次総合計画」がスタートする重要な年でございます。

先ほど、新年度の施政方針でもご説明しましたが、第6次総合計画の将来像「世代を超えた笑顔と豊かさを未来へつなぐまち」の実現に向けて、総合計画に掲げた施策を確実にスタートさせる予算を編成しました。

特に、次世代を担う子どもたちの学びや体験、健やかな成長を支える施策に重点を置きつつ、暮らしの安心を守る施策や人口減少・少子化対策、産業機能の向上など、次の時代につながる様々な挑戦に財源を優先的に配分しました。

なお、令和8年度の予算編成に当たっては、令和7年8月に予算編成方針として、2つの基本方針を定めており、1つめの方針は、「第6次総

合計画前期基本計画の着実な推進」、2つめの方針は、「持続可能な行財政運営の実現」となっております。

令和8年度の一般会計当初予算の規模は、過去最大の244億2,245万2千円で、3つの特別会計と水道事業会計及び下水道事業会計を合わせた総予算額の規模は、390億7,974万7千円となり、前年度比2.6%の増となりました。

市税収入におきましても、個人市民税において、課税対象となる所得額が増加していること、固定資産税において、企業の設備投資による償却資産の増を見込んだことなどから、過去最大となりました。

それでは、令和8年度予算案における主な事業について、基本方針の順にご説明いたします。

まずは、基本方針の1つ目「第6次総合計画前期基本計画の着実な推進」として、前期基本計画の「6つの目指すまち」に位置付ける主な事業について順に、ご説明いたします。

はじめに目指すまち①の「若い世代が定住したいまち」についてです。

1つ目は、「学校施設へのエアコンの設置」で、教育環境の向上、避難所としての機能強化に向け、小中学校の体育館と柔剣道場19か所に停電対応型エアコンを整備するため、令和8年度当初予算では、限度額18億6,704万7千円の債務負担行為を設定し、令和9年2月の整備完了を目指します。

2つ目は「インクルーシブ保育（幼児教育）の推進」で、障がいの有無にかかわらず、保育所で必要な支援を受けられるよう、障害児等を受け入れるための保育士の加配に係る経費や令和10年の清水口保育園民営化に向けて、障害児等が通園しやすい環境を整えるための駐車場整備に係る設計業務の経費などとして1,936万4千円を計上しています。

3つ目は「認定こども園への移行推進」で、保護者の就労の有無にかかわらず、幼児教育と保育を一体的に受けられる環境を整備するため、認定こども園に移行する幼稚園に補助金を交付する経費として3,750万円を計上しています。

4つ目は、「学校給食費の負担軽減」で、国による小学校の学校給食費の「いわゆ

る無償化」に加え、国の基準額を上回る部分は公費で負担するとともに、令和7年度から市独自で実施している中学生の学校給食費の無償化を継続し、全ての小中学生の学校給食費を無償化する経費として、3億316万7千円を計上しています。

5つ目は、「キッズスペースの設置」で、子育て中の市民の方々が、こどもと一緒に安心して手続きなどに来庁できるよう、母子・保育・子育て相談などの窓口が集中する保健福祉センター3階にキッズスペースを設置する経費として、26万1千円を計上しています。

次に、目指すまち②「誰もが交流し支え合えるまち」です。

1つ目は、「住宅用防犯対策設備支援補助金」で、防犯対策の普及を図り、市民の防犯意識を向上させるため、自宅に設置する防犯カメラやセンサーライト、録画機能付きドアホンの購入費用などの一部を補助する経費として、150万円を計上しています。

2つ目は、「地域公共交通の再編検討」で、誰もが目的に応じて便利に移動できる交通サービス網の構築に向けて、オンデマンド交通の実証実験、コミュニティバスの路線やダイヤ再編に向けた検討を行うため、4,027万4千円を計上しています。

3つ目は、「地域共助型交通運行の支援」で、公共交通の補完として、地域住民・団体が主体となり、グリーンスローモビリティも含め地域内のニーズに応じた運行車両・運行方法を選択し、運営することを支援する補助金など1,097万1千円を計上しています。

次に、目指すまち③「自ら学び育ちチャレンジできるまち」です。

1つ目は、「こどもの仕事体験」で、こどもが様々な体験を通じて将来の可能性を広げるため、市内小学生を対象に、地元企業や団体等の幅広い方々に協力をいただき、職業体験を実施する経費として、250万1千円を計上しています。

2つ目は、「放課後子ども教室の拡充」で、こどもの健やかな成長を支えるため、こどもが様々な人との関わりや体験ができる場として、現在6つの小学校で教室を開催しているところですが、令和8年度は新たに清水口小学校で教室を開設することとし、総額で2,187万6千円を計上しています。

次に、目指すまち④「白井らしい環境を活かすまち」です。

1つ目は、「農業政策アドバイザー」で、持続可能な営農を支援するため、スマート農業をはじめとした新技術の導入などについて、「農業政策アドバイザー」の知見を活かした農業者への支援を行う経費として66万円を計上しています。

2つ目は、「マンション管理の適正化の推進」で、市内の高経年マンションの増加を見据えて、マンション管理の適正化を推進するため、分譲マンションの実態調査に係る経費として、244万円を計上しています。

次に、目指すまち⑤「新しい産業が栄えるまち」です。

1つ目は、「農地集約化等の促進」で、アグリビジネスを担う農業法人等の誘致を推進するため、国・県の補助金を活用して、農地や施設の整備費を補助する経費として5億1,005万円を計上しています。

2つ目は、「育児・介護等休業の取得促進」で、安定的な雇用創出と市内企業の魅力向上に向けて、労働者の仕事と育児・介護等の両立を積極的に推進する市内中小企業等に対して奨励金を交付するため、75万円を計上しています。

3つ目は、「生産性向上道路の整備」で、白井工業団地と国道16号を結ぶ幹線道路、工業団地アクセス道路について、平成20年度から長年にわたり事業を進めてきましたが、令和8年度は令和9年4月の供用開始に向けた最終年度となり、6億4,933万2千円を計上しています。

次に、目指すまち⑥「災害に強いまち」です。

1つ目は、「感震ブレーカーの普及促進」で、震災時などにおける電気火災を防止

する「感震ブレーカー」を有償配付するため、137万円を計上しています。

2つ目は、「消防団の再編」で、消防団組織全体の最適化に向けて「消防団の再編」を進め、新たに消防団員が安全・安心に活動できる拠点を整備するため、971万2千円を計上しています。

3つ目は、「桜台センター長寿命化工事実施設計」で、開館から30年以上経過する桜台センターの長寿命化工事に向けた実施設計に係る経費など、4,547万1千円を計上しています。

次に、基本方針の2つ目「持続可能な行財政運営の実現」のための主な事業について、ご説明します。

令和8年度当初予算では、市の将来を見据えた持続可能な財政運営のため、安定的な財源の確保が必要であることから、引き続き税の徴収率の向上や、ふるさと納税制度の活用を図るとともに、企業誘致の推進を強化していきます。

また、「白井市DX推進指針」に基づき、市民サービスの向上や市役所業務の効率化を図るため、議会の映像配信へのAI字幕の導入に伴う議場・委員会システム更新、電話・ショートメールサービスを活用した自動音声架電による納税催告を実施する「自動架電システム」の導入、小中学校の通信ネットワーク速度の改善を図るための回線工事などを行います。

さらに、行政サービスの向上及び職員の接遇意識の向上を図るとともに、カスタマーハラスメント対策の一助とするため、市役所庁舎及び保健福祉センターの電話に通話録音機能を導入する経費などを計上しています。

以上が、令和8年度当初予算の概要となります。